

3. ホスピスパートナー養成事業

市民・学生・医療福祉従事者・在宅介護体験者などを対象に「看取りの文化の育み」「とことん当事者」「人として出会う」「聞き書き」を基軸に、地域でケアを受けている在宅療養者の人生を豊かにするパートナーとして活動していただける人材を養成する。

(1) とことん当事者の意思決定支援

【開催日】8月27日（日）13：00 - 15：30

【会場】コミュニティスペースとんとんひろば

【講師】山梨市立牧丘病院 古屋聡先生

【参加者】12名（がん患者さん、一般市民、医療保健福祉従事者）

【内容】講師のご両親の意思決定支援の体験について親の立場・長男の立場でリアルな本音のプロセスをお話いただき、自分だったらと考える貴重な学びだった。講演のあとの座談会では、小松がんと共に自分らしく生きる会「まんまーる」の方々も参加され、今の思いを語られた。意思決定は100人100様であると学んだ。

【評価】十分な広報ができず参加者数は少なかったが、座談会はざっくばらんで活発だった。



(2) 認知症・せん妄症状についての勉強会

【開催日】3月6日（水）16：30～17：00

【会場】ホームホスピスもう一つの家ややさん

【講師】精神科医 上野秀樹先生

【参加者】9名



【内容】認知症見立て研修を開催されている上野先生にお願いし、認知症とせん妄症状のアセスメントのポイントについて講義を受けた後、現在課題となっている夜間せん妄が続くホームホスピスの認知症の入居者の事例をもとに具体的に学んだ。過去のアルコール過剰摂取・糖尿病のコントロール、現在内服中の薬剤等をアセスメントし、内服薬がせん妄症状の原因となっている可能性があることがわかった。参加できなかったスタッフには伝達講習を行った。

【評価】勉強会のあと、訪問診療医と相談し精神科を受診していただいた。内服薬が見直され、せん妄症状が改善した。具体的な事例を上野先生と見立てひも解くプロセスはとても勉強になり、スタッフのせん妄への理解が深まり、共通言語ができて効果的だった。

(3) ホームホスピスのあるまちづくり

【開催日】5月13日(月) 14:00 - 16:00

【会場】ホームホスピスもう一つの家やさん

【講師】ホームホスピス神戸なごみの家 松本京子氏

【参加者】9名



【内容】ホームホスピスとは何か、ホームホスピスにおける生活支援の目指すところ、ホームホスピスが地域に果たす役割について、神戸なごみの家のこれまでの実践から学んだ。

能登半島地震の勝山の福祉避難所に支援に入られている方が、今後、民家を活用した居場所づくりが必要なのではないかとややさんの見学も兼ねて参加され、貴重な交流の機会にもなった。



(4) BCP 実践シュミレーション訓練

【開催日】5月21日(火) 13:00 - 14:00

【会場】88Labo 3階研修室

【講師】一般社団法人コミュニティヘルス研究機構
コミュニティヘルス研究部機構長 山岸暁美先生

【参加者】13名



【内容】BCPの目的や意義について、能登半島地震におけるBCPの発令の現状についてのお話のあと、BCP発令のシミュレーション訓練をモデル事例で行った。

昨年度中に法人全体で、山岸先生が発案されたBCPの立案プロセスに沿ってBCPを立案した経緯があり、立案したBCPをどう具体化していくかが課題だったが、シミュレーション訓練を行うことで衝撃とリアリティを感じる事ができた。ひとつひとつの場面での選択はそこにいた参加者ひとりひとりで違ってよく、どうしてそのように考えたかを語り合うことを繰り返し行うことが大切であることを学んだ。



【参加者の声】

- ・能登半島地震という具体的事例の後でのシミュレーション訓練に、かなりの衝撃を受けた。本当に勉強になった。
- ・昨年から BCP について学んでいるが、どれほど重要なものであるか改めて理解した。
- ・BCP の発令にあたってはシミュレーション訓練を定期的に行い、スタッフ間で語り合う機会を繰り返し持っていきたい。

(5) ホスピスパートナー養成事業

【受講生】 延べ 30 名、37 日

【受講動機】・ 尊厳ある排泄ケアの実際を学びたい

- ・能登半島地震の支援を通じて自分がやりたい看護について考えるようになった
- ・ホームホスピスで働くか、または開設を考えている
- ・訪問看護への就職を考えている



【研修内容】 受講生のニーズを把握し、ニーズにそったプログラム案を作成した。能登半島被災地支援を通じて、便秘や尿失禁など排泄に課題を抱える方との尊厳ある向き合い方を具体的に学びたいという希望が多かった。コンチネンスケアの理念、排泄のメカニズムとアセスメント、排泄ケア方法の選択、排泄のアセスメント票と排尿チェック表・排便チェック表の見立てとケアの選択方法を学んでいただいた。

【評価】 受講生は能登半島地震を経て DC-CAT として被災地支援を継続的にされている。受講生の一人は本研修後、在宅看護センターの開設を目指して笹川記念財団の研修会を受講している。POO マスター養成研修会を受講後、地域でおなかの保健室を開き活動を継続されているなど、成果を上げることができた。

(6) 地域づくりミーティング

【開催日】 1月22日（月）、2月22日（木）、4月25日（木） 16:00~17:30

【会場】 コミュニティスペースとんとんひろば

【内容】 ホームホスピスもう一つの家ややさんが、地域に開かれた場所となるためにややのいえの「とことん当事者」「人として出会う」の理念の具体化のために、これまでややのいえで地域の方々と企画から運営まで一緒に行なってきたプロセスを学んだ。INPUT した学びを OUTPUT するために令和 6 年度は、お餅つき大会や夏祭りなどの企画を地域の方にもお声かけし、一人一役で企画・運営していくこととなった。

【参加者】 延べ 20 名